

学校保健

No.173

(財)日本学校保健会

特集 エイズ問題

- 学校におけるエイズ指導
について… 2
- 高校・中学校・小学校の実際
… 3～5
- Q&A … 6

会報をよくするため、読者のご意見を求めています。お葉書をお寄せください。

学校保健とエイズ

(財)日本学校保健会専務理事 和久井 健 三

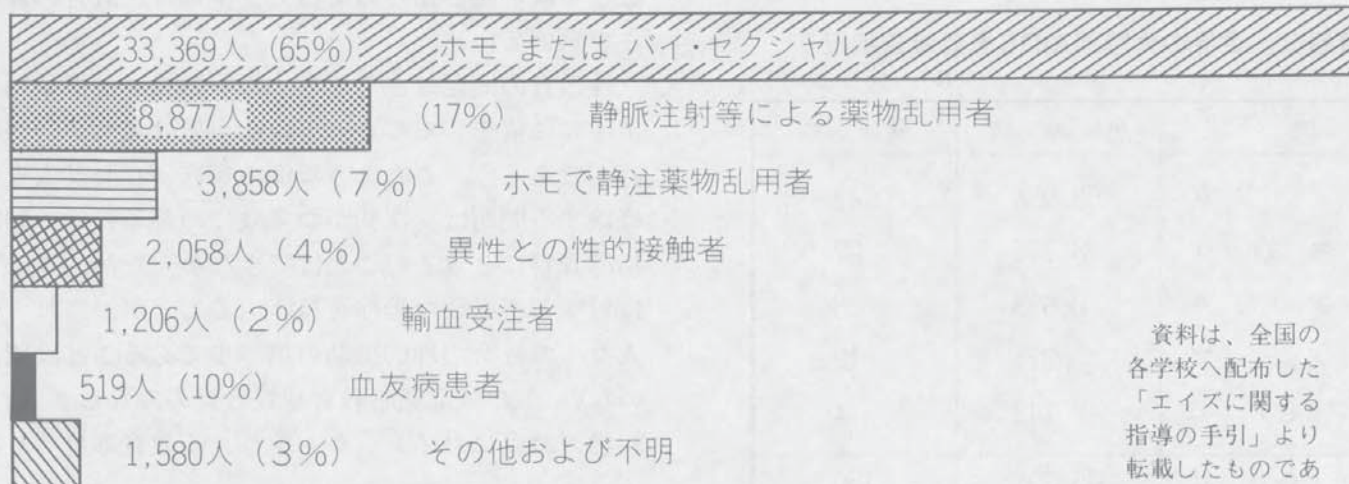
エイズ問題は、一時パニック状態になったが、国民の理解が進むにつれて、大分落ち着いてきたようである。しかし、治療法と適確な予防法がないだけに、まだまだ安心することはできない。本会会報の特集に際し、一言見解を述べたい。

エイズに対応するには多くの問題点がある。第1は、エイズウイルスと免疫を考える生物学的問題。第2は、これらを予防するための、保健衛生上のいわゆる予防医学的問題。第3は、われわれ当事者の教育の問題、とくに性教育について、各学校種別、学年（小学校では）別の指導内容・方法及び対応の問題。第4は、まだ成立していないが、国が施行するエイズ予防法などの法律化の問題。さらに血友病患者に投与しなければならない凝固薬剤などの血液製剤についての問題などが挙げられる。

専門家の方がたはそれぞれの立場から大変な努力をしているが、われわれにとって必要なことは第3の教育の問題である。日本学校保健会から指導の手引が出されているが、さらに広い視野から性に対する教育の重要性を認識し、特に性的行為にも目を向けた指導の工夫と強化について、一段と努力する必要があるものとする。

資料4 アメリカにおけるエイズの感染経路（成人）

(63.2.1 アメリカCDC)



資料は、全国の各学校へ配布した「エイズに関する指導の手引」より転載したものである。

学校におけるエイズ指導について

東京大学医科学研究所教授 島 田 馨

1981年に発見されたエイズは、またたく間に全世界にひろがって、患者数は5万人とも10万人とも言われ、また、発病していないがエイズウイルスの感染者は1,000万人を越えるのではないかと推測されている。本邦では昭和63年6月現在、厚生省に80人のエイズ患者が報告されているにすぎず、エイズ問題はまだそれほど切実ではないが、青年男子の死亡原因のトップがエイズであるニューヨーク市や、健康供血者の6～8%にエイズウイルスの感染が見つかる中央アフリカ諸国では、エイズ対策に存亡がかかっていると言っても過言ではない。

エイズの感染経路は性交渉によるものと、輸血・血液製剤を介するものの二通りがあるが、献血のすべてにエイズの抗体検査を行なうようになった我が国では、血液を介する感染経路は遮断できたと考えてよい。残るのは性行為を介しての感染経路である。つまりエイズは今や性行為感染症 (sexually transmitted diseases) と位置づけられるようになった。

当分の間、エイズを予防できるワクチンや有効の治療薬の開発が望み薄である以上、エイズに罹らぬことしか防ぎようがなく、このためエイズ教育の必要性が繰り返し強調されてきた。エイズに悩む米国では、先ず男性同性愛者や麻薬・覚醒剤常用者などエイズのハイリスクグループに教育キャンペーンを展開し、同性愛男子のエイズ感染率がこの1～2年間低下してきているように、徐々に効果が挙がってきている。もっとも麻薬・覚醒剤常用グループでは、まだ見るべき成果はないようである。このハイリス

資料2 世界の大陸別AIDS患者報告状況

(WHO 1987. 12. 31)

地 域	患 者 数	発 生 国 数
ア メ リ カ	56,958	42
ヨ ー ロ ッ パ	8,775	27
ア フ リ カ	8,693	38
ア ジ ア	224	19
オセアニア	742	4
合 計	75,392	130

クグループのほかに、とくに10代の年齢層に対する教育が重視されている。米国のPublic Health Service (公衆衛生局)は「国家の目標—健康増進と疾病の予防」という文書の中で、「1990年までにすべての米国の中学・高校において、性行為感染症についての正しい教育を行なうようにする」ことを目標にしている。中学・高校で性教育を実際に行なうには、性の開放が進んでいる米国でも多くの問題が残されているが、10代で性的体験を持ち始める例が少ない社会にエイズ問題がおきた以上、学校での性教育は妊娠、出産、避妊などにとどまらず、生死に係わる感染症の教育を避けては通れなくなった。このため性教育に力を入れ、オレゴン州のように州議会が性教育担当教師奨学基金を設立したところもある。

歴史・文化の背景が米国と異なる日本の社会には、米国の一部で行なわれているストレートな性教育法がそのまま全面的に受け入れられるとは思わない。これは今回のエイズに関する指導資料を作成した委員のほぼ一致した意見であった。したがって指導資料も健康教育の一環としてエイズをとり上げようとの色調が濃くなっている。一方、年間170名近い20歳前後の未婚の女子大生、OLの性行為感染症を外来治療した関西の某大学産婦人科では、淋病・梅毒など旧性病は90%が知っていたが、当人等が罹患しているクラミジア、性器ヘルペス等は2%程度しか耳にしたことがなく、パートナーとの同時治療の必要なこともほとんど知らぬ有様で、本邦の性教育の貧困さを歎いている。

性教育の問題はさておき、母子感染や血液製剤でエイズに罹患してしまっている小児は最も悲劇的な存在であろう。このような例の家族、教師、友人らの経験する問題は、深刻かつ多岐にわたるので、到底指導資料にとりこむことはできなかったが、エイズに対する不必要な恐怖を拭い去ることが、これらの人々への社会心理的援助の第一歩であることは間違いない。エイズは健康教育や性教育のみならず、社会科学の教育にもインパクトを与える教育素材でもある。

〈高 校〉 教科「保健」学習における指導

神奈川県立麻溝台高校教諭 中 島 雅 美

はじめに

情報化社会における青年の課題は多くある。その一つとして、健康問題におけるエイズがあげられている。テレビや新聞等で恐い病気として騒がれ、現在も患者が増加傾向にある。そこで正しい情報を選択し、混乱を生じさせないようにしなければならない。

今回は一番指導のきっかけをつくりやすい教科保健での指導を試みたのである。

指導内容

指導は昨年度の三学期に、エイズに関する指導資料作成委員会（日本学校保健会）の資料を参考に実

践した。指導単元は「集団の健康」の疾病予防活動における伝染病の予防活動と関連させて指導案を試作したものである。

その指導案は左記のとおりである。

指導後の反省

この試案した単元に指導を設定したことについては、「循環器系の働き」で血液・リンパなどを指導してきていること、また「生殖器系の働き」では精液について、「家族計画」では避妊法と性病予防について、「母子保健」では母体と胎児の感染症について指導してきていることから、エイズ指導の主要な観点だけの指導についてはスムーズに展開ができた。

しかし、免疫機構、同性愛者の性行為、差別と偏見、診断方法、消毒法、日本及び海外での予防対策などについて、もっと説明指導する必要性を感じた。

指導後の生徒の感想

生徒が今、自分の生活の中で感染する機会があると思うかについては、48名中「あるかも知れない」と男子23%、女子30%が答えた。その内容をみると、「事故で輸血されるとき」の心配が多かった。また「感染者が近くにいたとき」と答えていた者もいた。とくに後者の指導については慎重に考えねばならない。

次に、エイズについて疑問を感じたことについて、「最初にエイズになった人はどうしてなったのだろうか。また、エイズは何故この頃になって流行してきたのだろうか」(男子)、「感染したら絶対なおらないのか、また、エイズウィルスの保菌者が増えているようですが、どのように診察させるのか」(女子)などの感想意見があった。

おわりに

エイズ問題をただ一つの疾病としての指導だけでは済まないようである。もし指導時間が許されるなら、エイズに関するビデオテープを利用するなどして感染予防を中心に指導を徹底する必要がある。主感染は性行為であり、人間の生理的現象から起っているため難しい場面もあるが、今後、生徒が感染者となるケースもあると思われるので、指導方法については十分検討する必要がある。

指導事項	学 習 活 動	指導上の留意点
1. 伝染病について	(1) 伝染病の発生要因(感染源、感染経路、感受性)について知る。	
2. 平常時の伝染病	(1) 伝染病予防の三原則を理解する。 ○感染源対策 ○感染経路対策 ○予防接種	○免疫性と予防接種の関連について説明を加える。
3. エイズという感染症とその予防法について	(1) エイズに関する知識とその予防法について正しく理解する。 ○エイズの発見と病原体の判明 ・病原体はヒト免疫不全ウイルス(HIV、ヒブ)である。 ○患者数および死亡率 ・世界と日本の現状(資料1.2.3.) ・どんな人が感染しているか(資料4.5.) 3) 症 状 ・本号のQ&Aを参照。 ○感染経路 ・血液や精液の中のウイルスが皮膚や粘膜の傷口から侵入し感染する ・感染の機会について(①性行為 ②薬物乱用者間の血液で汚染された注射針 ③母子感染<胎盤、産道、母乳など> ④血液製剤) ○予防法について ・血液による汚染を避ける。 ・男女を問わず不特定多数の相手との性行為は避ける。 ・薬物の乱用は絶対しない。	○2、3人の生徒にエイズはどんな病気であるか問いかけ、理解度を確かめておく。 ○多発国に対する人種差別や偏見を助長させないようにする。 ○日本の場合、血友病患者が多いが、その理由について正しく理解させる。 ○献血に不安感を与えないようにする。(献血の際使用する針やバッグは一人ずつ交換するので、献血では感染しないことを理解させる。) ○血液製剤は現在ウイルスの有無が検査されさらに加熱処理されているので感染のおそれはない。 ○血液については自他ともに衛生的な生活習慣をこころがけるように指導する。 ○性行為時に避妊具のコンドームの使用は予防に有効であることを補足する。

〈中学校〉「エイズ」に関する指導の反省

武蔵野市立第四中学校教諭 菊池秀興

はじめに

エイズの感染者や患者が増加する一方、有効な治療が開発されないでいる現在、義務教育の最終段階の中学校で「感染予防」の知識を修得させておくことはきわめて大切なことと思われる。しかし、エイズについての知識は、教師にも不十分なために、指導の場と担当者がまず問題になる。

どこで誰が指導したらよいか

まず、一般的に扱いやすいと思われるのはやはり、養護教諭であろう。学校医や専門家の協力を得て、学校行事の一環として講演会等を開催し、学年全体または全校生徒に一斉に知識を広めることができる。

また、保健学習の「疾病の発生要因とその予防」の単元の最後に位置づけ、保健体育科の教師が教科の授業の中で教えることも可能である。

そして、もうひとつは、学級指導の「安全指導」に位置づけて学級担任がとりくむ方法である。この方法は、担任全員がとりくむ必要があるという困難さはあるが、生徒に浸透させるためにはきわめて有効である。

学級指導の実践の体験から

本校の3年生を対象に実際に指導したポイントと

反省点を以下に述べてみたい。

資料1 日本のエイズ患者報告数の推移

年 月 日	累積患者数
85. 3. 22	1
5. 30	6
7. 10	8
10. 22	11
86. 1. 31	14
4. 3	15
6. 12	16
9. 26	21
12. 19	25
87. 1. 17	26
2. 25	29
3. 19	36
4. 23	38
6. 16	43
9. 4	50
11. 24	59
88. 2. 19	66

(厚生省報告による)

・指導のねらいはエイズの恐怖感をたたきこむことなく、感染症予防に必要な生活習慣の確立をはかることである。そのためには、個人の健康と集団の健康という観点から感染症をとらえさせると良

い。

- ・エイズに関する知識がほとんどマスコミだけに限られている生徒の場合、知識がかなりかたよっているので、エイズについての偏見や誤解をただし、基本的な正しい認識をもたせる必要がある。このためにも、わかりやすい資料を是非準備したい。VTR等も市販されているようなので今後は活用していきたいと思う。ただ、正しい知識が大切だからという理由でエイズの症状を詳細に説明する例もあるが、これは避けたほうがよいと思う。生徒に、いたずらに不安感を与える危険性がある。
- ・生徒の中にも大人の中にも、「感染症患者はすぐに隔離すべき」という暗黙の心理がはたらいっている。このため、患者の人権尊重の立場から、「感染経路の遮断に注意をはらえば通常の生活が可能であること」を特に強調することが大切である。
- ・エイズの授業のむずかしさの第一は、やはり性の問題を避けては通れないところにある。性教育がある程度実施されていればそれ程でもないかもしれないが、教室の中で生徒とかわすことのできる「性に関する用語」があまりにも貧困なために、生徒との会話が成立しにくいのが実情である。このため、性行為等の感染経路については一方的な説明に終始してしまう傾向がある。また逆に、同性愛等への興味本位の質問が飛び出して、教室が混乱してしまうことも考えられる。
- ・もうひとつむずかしいのは「血液」の扱いである。血液による感染の防止は大切なことであるが、生徒が「血液は不潔なもの」と思いこまないように注意しなければならない。しかも、他人の血液を慎重にあつかうことは今後ますます大切になるので、このこともきちんと認識させる必要がある。

おわりに

一般に生徒たちのエイズへの関心は高いといえる。そして、性に対する関心は、興味本位な生徒と極端に避ける生徒に二分される。こんな状況の中でエイズを扱うためには、やはりまず教師自身がエイズについてしっかり学習することが出発点になると思う。

〈小学校〉「エイズ」に関する指導に当って

東京都練馬区教育委員会指導室長 佐藤 倫 則

指導の進め方

知っていることと、できることとは、必ずしもイコールではない。例えば、シンナーやトルエンに代表される薬物濫用が、健康を損ない、生命を失う事態をまねくことはよく知られているし、子どもたちも知っている。

危険であることを知ったとき、または、そういう事態に直面したとき、危険を回避するための行動をどのように選択していくことができるか、そこが問題なのである。これまでの知識や経験(学習)をどう生かすかは、その人の考え方や生き方と深くかかわってくる。

エイズに関する指導も、同様である。たんなる知識の普及に止まらず、生涯にわたって健康で安全な生活を送ることができる態度や習慣を育てる保健教育の内容に位置づけ、よりよい行動の変容を目指して行うことが大切である。その際、特に大切にしなければならない視点として、いわれのない偏見や差別を排除するということである。エイズには、暗く、ゆがんだイメージや蔑視的な感情を伴いがちである。

したがって病気そのものと、人の心とのかかわりを重視した指導を進める必要がある。

指導の機会

小学校においては、学級指導における「保健・安全に関する指導」に位置づけた保健指導が最も妥当であろう。指導学年は高学年を対象とし1単位時間は必要である。その他として、知識欲が旺盛な時期なので保健相談的な質問が多く出された時とか、いじめや、

資料3 国別エイズ患者報告数
(WHO 1987. 12. 31)

1	アメリカ合衆国	49,743
2	フランス	2,523
3	ウガンダ	2,369
4	ブラジル	2,325
5	タンザニア	1,608
6	西ドイツ	1,588
7	カナダ	1,423
8	英国	1,170
9	イタリア	1,104
10	ケニア	964
11	ハイチ	912
12	メキシコ	713
13	ルワンダ	705
14	スペイン	624
15	ブルンジ	569
16	ザンビア	536
	その他	6,516
	合計	75,392

非行といった生活指導に関する事態が生じた時などに機会をとらえ指導の場を適切に設定できるようにしておくことも大切である。

ねらいの立て方

総括的なねらいは、「感染症としてのエイズの疾病概念、感染経路、予防対策を正しく認識させ、健康的な生活を営む態度や習慣を育てる」ことにある。指導のねらいは具体的で何をどう学ばせたいのか、どのような姿に変容させたいのか、教師のねがいが表われているものでありたい。できるだけ簡潔な表現がよく、そうすることによって指導内容が決定しやすくなるし、指導の重点化を図ることができる。

指導内容

エイズに関する指導の困難さはいくつかあるが、その最大のものとは感染経路の特異性にある。小学校の段階では性行為感染症としての扱いは、性教育を計画的・組織的に行っていたとしても発達段階からみて無理がある。

感染経路そのものではなく「エイズのウイルスは人の血液の中にすみつき、エイズのウイルスを持っている人の血液が傷口にふれると、そこから侵入してくる」というように媒体を中心に扱うことがよいであろう。

日和見感染症なども病理的な扱いよりは具体的な症状(状態)で示す方が理解しやすい。疾病概念、感染経路、予防対策、いずれも大切な内容ではあるが学級指導という特性にそった内容を検討すべきであろう。

おわりに

エイズは日本にも定着したといわれている。また、青壮年層に多発しているともいわれている。それだけに若い世代の教育が全世界的な課題として重要視されている。

先行研究や指導事例も他の分野に比べると極めて少ない。しかし、学校教育への期待は大きいだけに座して待つわけにはいかない。

幸い「エイズに関する指導の手引」が作成されている。参考にされ、数多くの実践がなされるよう切にねがうものである。

Q & A - 学校保健活性化のための -

Q エイズは死に至る病気として大変恐れられています。では、エイズに感染するとどういう症状がでるのでしょうか。また、日和見感染とはなんですか。

A.....文部省体育局学校健康教育課専門員 佐藤 敏 信

まず、エイズウィルスは、体内に入るとT4リンパ球を徐々に破壊していきます。リンパ球は、血液の成分の一つであり、「免疫」という重要なはたらきをもっています。「免疫」という言葉の意味は近年変化していますので、ここでは仮に「病原体(細菌やウィルスなど)を初めとするさまざまな異物に対する、生体の防御反応(防御機構)」とでも定義しておきましょう。さて、T4リンパ球は、人間の免疫の総司令部ともいえる役割をもっていますから、これが破壊されることは免疫機能全体の破壊を意味します。

エイズのように免疫機能そのものが破壊される病気にかかっているときや、たまたま別の病気にかかっているとき(すなわち免疫のはたらきが弱まっているとき)には、ふだんあまり問題にならないような病原体までもが活発に増殖し、発病へと至ります。後者の例としては、がんの末期患者の真菌症(かびの一種)などが知られています。普通ですと、こういった病原体が体内に進入しても、リンパ球を中心とする防御機構がはたらいて、発病を防いだり、発病しても比較的軽度ですんでいるわけです。このように、本来は毒力の弱い病原体が、何らかの免疫機能の低下につけこんで増殖し、感染へと至る状態を日和見感染と呼んでいます。

エイズの場合は、この日和見感染を初めとして、結核など本来毒力の強いさまざまな感染症が起こってくるのが特徴です。したがって、その症状は、エイズウィルスそのものによる症状に加えて、免疫機能の低下につけこんで侵入・増殖してきたさまざまな病原体による感染症の症状が現れてきます。結局のところ、エイズ患者の死亡原因もこれらの感染症によるものが多いようです。

エイズの診断に当たっても、抗体検査の結果とあわせて、以下に示すような特徴的な感染症の症状があるかどうかが決め手になります。

〈エイズに特徴的な感染症の例〉

- ①カンジタ症、②クリプトコッカス症、③単純ヘルペスウィルス感染症、④非定型抗酸菌症、⑤ニューモシスティス・カリニ肺炎、⑥結核

このほか、エイズの場合の感染症の特徴として、抗生物質等の治療によってなかなか治癒しないこと、通常、一種類だけでなく、多数の病原体による症状を示すこと等が知られています。なお、ニューモシスティス・カリニ肺炎はエイズ患者の80%以上にみられる特徴的な日和見感染の例です。本来まれな感染症であるニューモシスティス・カリニ肺炎患者の調査が、エイズ発見のきっかけとなったことは有名な話です。

資料5 日本の危険因子別・性別患者発生数及び死亡者数

(63.2.19 厚生省)

	患 者 数		合 計	死 亡 者 数
	男 性	女 性		
男性同性愛	19 (7)	—	19 (7)	8 (2)
異性間性的接触	4 (2)	4 (2)	8 (4)	4 (3)
凝固因子製剤	37	0	37	24
不 明	1	1	2	2
合 計	61 (9)	5 (2)	66 (11)	38 (5)

() は外国人で再掲。

文部省体育局の人事異動と機構改革

6月10日付けで、体育局長に坂元弘直氏（前高等教育局私学部長）、大臣官房審議官（体育局担当）に小笠寺直巳氏（前社会教育局社会教育課長）が就任され、前体育局長國分正明氏は高等教育局長に、前大臣官房審議官（体育局担当）、青柳 徹氏は北海道大学事務局長に、前学校保健課長込山 進氏は大臣官房福利課長にそれぞれ栄転されました。



坂元体育局長 小笠寺審議官 石川学校健康教育課長

また7月1日付けの機構改革により、体育局は、体育課・生涯スポーツ課・競技スポーツ課・学校健康教育課によって構成され、学校保健関係事項は学校健康教育課に移行することとなった。

〔学校健康教育課の人事について〕

- 課 長 石川 晋氏（前学校給食課長）
- 体育官 吉田瑩一郎氏
- 学校健康教育企画官 桜井 清氏
（前国際学術局学術課課長補佐）
- 課長補佐 小谷 正己氏（前学校給食課課長補佐）
- 課長補佐 藤井 陽光氏（前学校保健課課長補佐）

●本会役員の変動

5月27日(金)第1回評議員会が開催され、次の役員(補充)が承認・選出された。(なお今回承認・選出された役員の任期は前任者の残任期間-64年3月31日-となる。)

- 会 長 村瀬 敏郎 副会長 矢野 享
- 常務理事 宮川 糧平 理 事 吉田 信、
- 長屋 幸郎、清水 善之

●第38回全国学校保健研究大会

(昭和63年度 全国学校保健協議大会)
 日時 昭和63年11月10日(木) 11日(金)
 [評議員会 10日、協議大会 11日]
 場所 長野県長野市 長野県県民文化会館他
 標題 「心豊かで活力に満ちた子どもの育成」
 一心とからだの健康づくりを目指してー

●本会副会長 尾花 茂 先生逝去



本会副会長尾花 茂先生(大阪府学校保健会会長)には、7月12日(火)逝去された(享年74歳)。告別式は7月15日(金)東本願寺堺南御坊で盛大に執行された。ご葬儀に際し、本会から和久井健三専務理事が参列し、会長の代理として弔辞を奉げた。

昭和63年度「学校保健用品」推薦一覧表 (2) (昭和63年4月1日～昭和64年3月31日) ○印 新規

別	番号	品 名	摘 要	商 社
器 具	1	数学タンサンカルシウムチョーク	教授用チョーク	日本教学工業(株) ライオン(株) サライ(株) 日本フィーター工業(株)
	②	デント EX 学童	学童用歯刷子	
	③	コロロ自動うがい器	自動うがい器	
	4	塩素減菌機 NフィーダCSD-12型 Nフィーダ HP-21型	塩素減菌用	
器	5	クリーンウェット	学校給食用手ふき紙	(株)トーヨ ライオン(株)
	6	リストライオンジュニア (高学年～中学生向け)	学童用歯刷子	
材	7	ライオン歯刷子キャップ付 (低学年用)・(高学年用)	"	"
	8	携帯用酸素吸入器 O ₂ バック A 型	呼吸困難時の酸素吸入用	ミドリ安全(株) 四国化成工業(株) 日産化学工業(株) ライオン(株)
	9	映画「輝く水しぶき」	プール水質管理等プール管理のポイントを提示	
	⑩	映画「みんなの健康」	プールの水質管理の基本的要素	
11	エルディナブキン	女子の生理用品		

学校医マニュアル

学校医マニュアル

今までになかった
“学校医”のための指針

日本大学教授 大国真彦 編著

■重要な点をポイントとしてぬき出し、マニュアルとして工夫した読みやすい構成。
内 容 ●行政、地域医療との関わり●学校検診●事後措置●学校において問題になる疾患（気管支喘息、登校拒否ほか）●健康教育（性教育、高脂血症児、肥満児ほか）●学校における応急処置

■学校医のみならず、学校保健にたずさわる方々、全てに必携の一冊。

●A5判変型・430頁・図表243・2色刷 定価5,500円≒300

最新刊！
絶賛発売

文光堂

〒113 東京都文京区本郷7-2-7 ☎03(813)5478(直)・FAX(813)7241

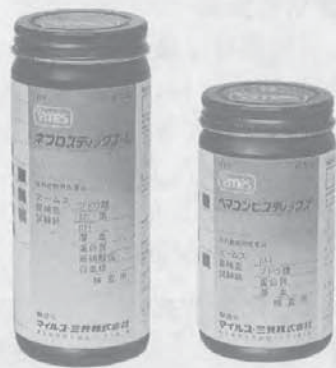
育ちざかりのひと粒!

体力をつけ健康を保つ

カワイ肝油ドロップ



製造発売元 **河合製薬株式会社** 東京都中野区新井2-51-8



学童の集団検診にお選びください。

尿中白血球反応をプラスしたエームスの尿検査試験紙

エームス尿検査試験紙 尿中pH、ブドウ糖、蛋白質、潜血検査用
ヘマコンビスティックス®

マイルス・三共株式会社
東京都中央区銀座1丁目9番7号 〒104 ☎(03)567-5511

エームス尿検査試験紙 尿中ブドウ糖、比重、pH、蛋白質、尿酸塩、白血球検査用
ネフロスティックス®-L

販売元：
三共株式会社
東京都中央区銀座2丁目7番12号 〒104 ☎(03)562-0411
JU14885

耳鼻咽喉科の学校保健

(社)日本耳鼻咽喉科学会/学校保健委員会 編
★A5・288頁・定価2,500円



第一法規 〒107 東京都港区南青山2-11-17
☎(03)404-2251/FAX(03)479-1747

学校医が耳鼻咽喉科の健康診断を実施する際の専門的解説と養護教諭が保健指導を行う際の参考となるよう編集された、初めての権威ある実務的必携書。アレルギー性鼻炎等、近年新たに発生してきた問題についても言及。

中学校 喫煙・飲酒・薬物乱用 防止に関する保健指導の手引

(財)日本学校保健会 編 ★A5・110頁・定価900円

喫煙やアルコール・薬物の乱用が、いかに健康を害するかということを中心として中学生にどのように指導したらよいか、学年別の指導例として具体的に紹介。カラー写真等資料も豊富に掲載したビジュアルな構成。

子供の歯を考えた

ライオンの2段植毛ハブラシ

●低学年用 ●高学年用

●推薦 日本学校保健会

ライオンの
ハブラシ製品
ライオン株式会社

“ふだんの予防で、元気な毎日”まず手洗い!!

殺菌 消毒用 **シャボネット石鹸液** ユム

日本学校保健会推せん No.632

精製ヤシ油を原料にした殺菌、消毒用石鹸液で、手洗いのあといや～な臭い
が残りませんので喜んでお使いいただけます。シャボネット容器に入れ、水で
7～10倍にうすめてお使いください。

サラヤ株式会社 TEL(06)797-2525

東京サラヤ株式会社 TEL(03)769-3131

△本会報は、拠出金と、本会への船舶振興会助成金により作成しました

発行 財団法人日本学校保健会 村瀬敏郎 〒105 東京都港区虎ノ門2-3-13 第18森ビル 電話(01)37850968 振替口座 東京4-98761 頒価1部100円(送料共)